

平成 2 8 年第 2 回定例会（ 1 2 月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

平成 2 8 年 1 2 月 5 日

農 林 水 産 部

目 次

1	平成29年産米の生産数量目標等について〔水田総合利用課〕	-----1
2	新たな秋田米の生産・販売戦略の策定について〔水田総合利用課〕	-----3
3	ナラ枯れ被害の発生状況について〔森林整備課〕	-----4

1 平成29年産米の生産数量目標等について

水田総合利用課

1 本県の生産数量目標

- (1) 11月28日、国は、平成29年産米に係る全国の都道府県別の生産数量目標と自主的取組参考値、及びこれらの面積換算値を決定・公表した。
- (2) 本県の生産数量目標は、408,644トン（面積換算で71,317ha）で、前年に比べて4,448トン（面積換算で776ha）、率にして1.1%減少した。
- (3) 期末在庫量を低位の水準（全国で180万トン程度）に近づけるために設定される「自主的取組参考値」は、407,532トン（面積換算で71,123ha）となった。

【生産数量目標・自主的取組参考値】

	平成29年産		平成28年産		前年比較	
		自主的取組参考値		自主的取組参考値		増減率
全国	7,350,000 t (139万 ha)	7,330,000 t (138万 ha)	7,430,000 t (140万 ha)	7,350,000 t (139万 ha)	▲ 80,000 t (▲ 1万 ha)	1.1 %
秋田県	408,644 t (71,317 ha)	407,532 t (71,123 ha)	413,092 t (72,093 ha)	408,644 t (71,317 ha)	▲ 4,448 t (▲ 776 ha)	1.1 %
全国シェア	5.56 %	5.56 %	5.56 %	5.56 %	－	－

2 今後の県の実行方針

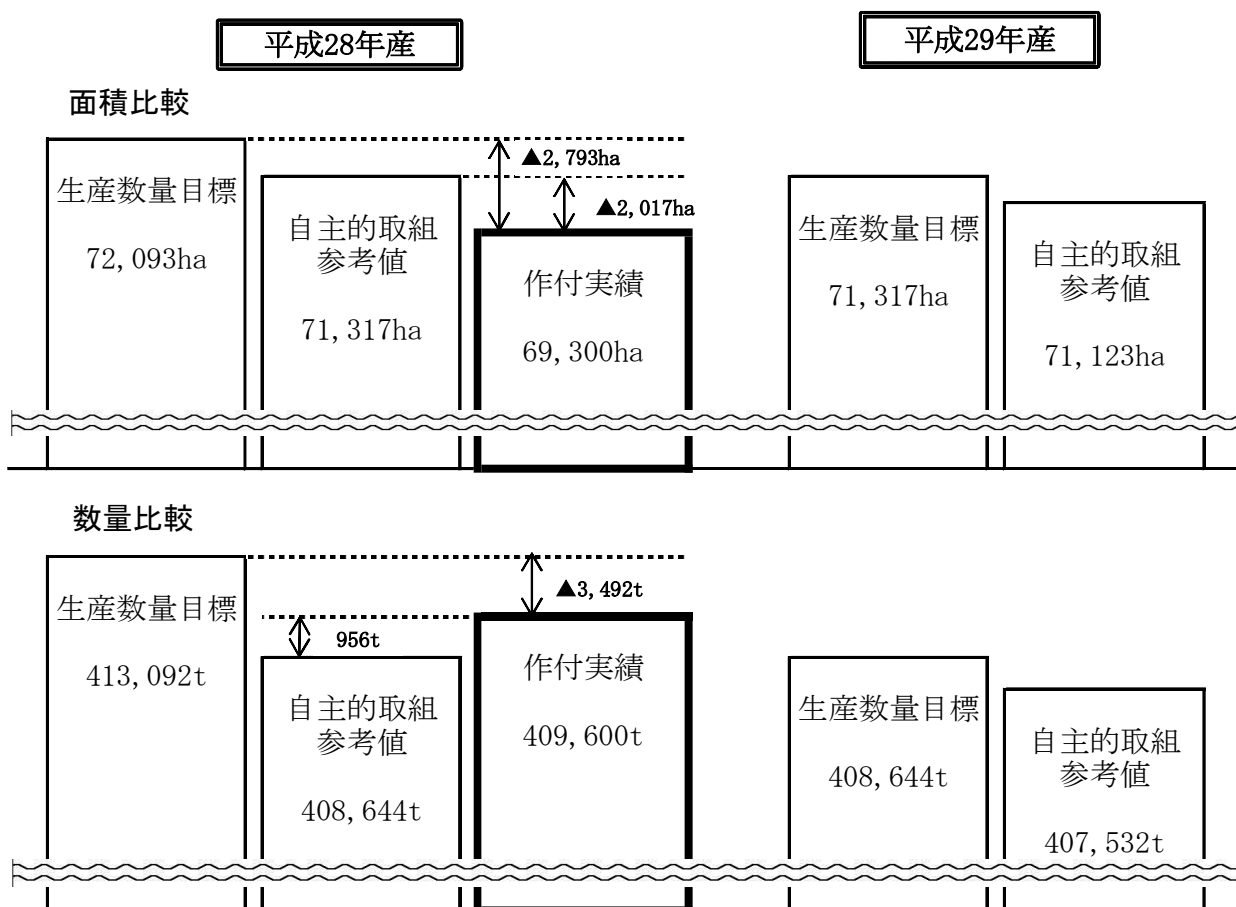
- (1) 平成30年産以降、県産米の需要動向を踏まえ、県全体の「生産の目安」を提示することとしているが、29年産米についても試行的に実施する。
- (2) 平成29年産米の生産調整の推進に当たっては、本年産の生産状況や今後の売れ行き動向、在庫の見通し等を踏まえて、「需要に応じた生産」に取り組むとともに、戦略作物の拡大など収益性の高い複合型生産構造への転換に向けた取組を加速させ、農業所得の確保を支援していく。

3 市町村別の生産数量目標

市町村への生産数量目標の配分については、秋田県農業再生協議会の協議を踏まえ、12月下旬に行う。

【参 考】

【平成28年産米の生産調整の取組状況】



2 新たな秋田米の生産・販売戦略の策定について

水田総合利用課

米政策が見直される平成30年以降を見据え、需要に応じた米づくりに生産者、農業団体、行政等が一体となって取り組んでいくための指針となる「新たな秋田米の生産・販売戦略」を策定する。

1 背景

- 平成30年産から行政による生産数量目標の配分が廃止され、生産者や農業団体が主体的に米の生産量を決める仕組みとなる。
- 各県で新たな品種がデビューするなど、産地間競争が激化している。
- こうした中で、全国有数の米産県としての地位を維持・発展していくための新たな生産・販売戦略の策定が求められている。

2 戦略策定の視点

米を巡る近年の消費トレンドや生産・販売環境の変化等を踏まえ、主に次の視点から戦略を検討する。

- ・ 中食・外食等業務用需要への対応強化
- ・ 実需とのマッチングの強化
- ・ 健康・簡便性の切り口からの新たな訴求
- ・ 購買意欲を高める効果的な販促・PR
- ・ 次世代米の位置付け、デビューの仕方
- ・ 海外市場の開拓、輸出促進
- ・ 低コスト・多収生産技術の開発・普及

3 戦略策定の手順

(1) 会議の設置

県内の生産者や農業団体に加え、卸や外食企業等の実需者をメンバーとする「秋田米生産・販売戦略策定会議（仮称）」を設置する。

(2) スケジュール（予定）

平成29年1月 会議の立ち上げ、課題の整理等
（複数回開催）

〃 8月 戦略の決定

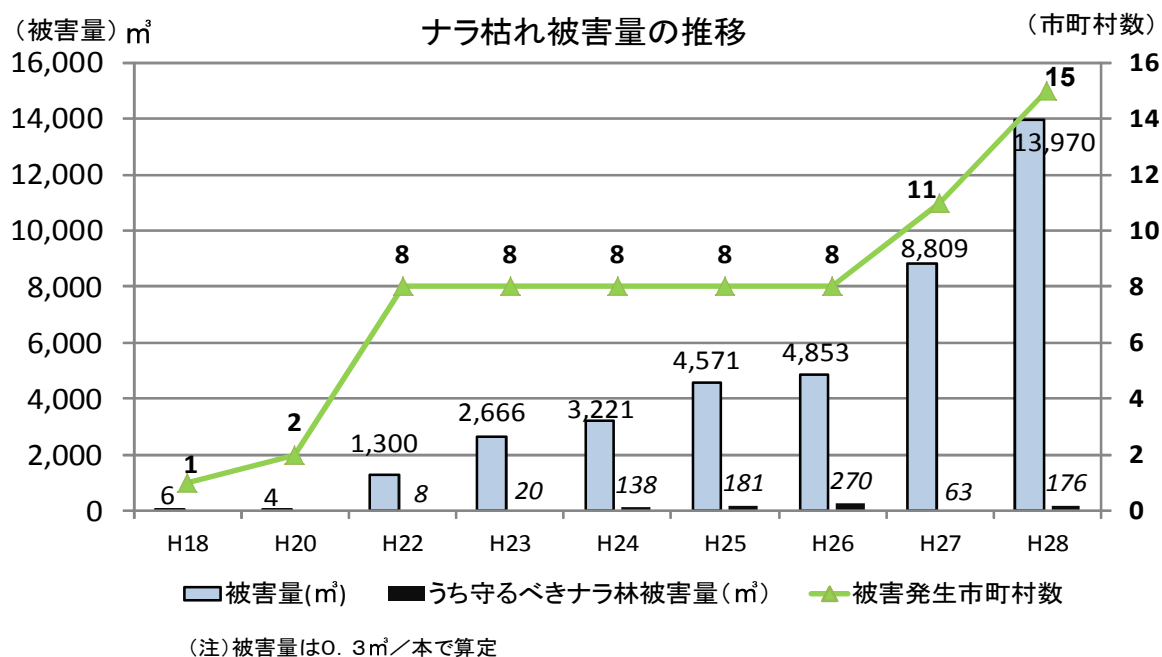
3 ナラ枯れ被害の発生状況について

森林整備課

1 被害の発生状況

本県民有林における平成28年度のナラ枯れ被害量は、対前年度比59%増の13,970 m³（46,563本）となった。

また、新たに能代市、三種町、仙北市、美郷町において被害が確認され、被害発生市町村数は15に拡大した。



※ 守るべきナラ林：ナラ枯れ被害を受けることにより国土保全や景観などに重大な影響を及ぼす恐れがある森林公園、景勝地等の森林で、平成28年度現在2,062haを指定済

2 被害拡大の主な要因

- ① 春の気温が平年値より高く推移したため、被害の原因となるカシノナガキクイムシの発生時期が例年より早く、活動期間が長かった。
- ② カシノナガキクイムシがナラ類へ穿入する6～7月に雨が少なく、樹木の抵抗力が弱まっていた。

3 今後の対応

- ① 新たに被害が発生した4市町では、被害拡大防止の観点から、来春まで被害木を全て伐倒駆除する。
- ② 既に被害が発生している市町村においては、樹幹注入（予防措置）や伐倒駆除により、「守るべきナラ林」の防除を徹底する。
- ③ 民家や電線、道路等に影響を及ぼす恐れのある枯損木は、随時伐倒処理する。
- ④ ナラ枯れに強い森林の育成を図るため、高齢ナラ林の積極的な伐採・利用を広く呼びかけ、ナラ林の若返りを図る。

【参 考】

1 市町村別被害量

年度 市町村	被害量(㎡)			うち守るべきナラ林の被害量(㎡)			(参考)守るべき ナラ林面積(ha)
	H26	H27	H28	H26	H27	H28	
鹿角市	-	-	-	-	-	-	48
小坂町	-	-	-	-	-	-	-
大館市	-	-	-	-	-	-	185
北秋田市	-	-	-	-	-	-	79
上小阿仁村	-	-	-	-	-	-	1
能代市	-	-	13	-	-	-	79
藤里町	-	-	-	-	-	-	5
三種町	-	-	5	-	-	-	251
八峰町	-	9	63	-	0	23	146
秋田市	80	231	286	-	-	58	371
男鹿市	500	1,090	957	258	61	45	19
潟上市	-	13	45	-	-	-	2
五城目町	-	-	-	-	-	-	0
八郎潟町	-	-	-	-	-	-	-
井川町	-	-	-	-	-	-	-
大潟村	-	-	-	-	-	-	-
由利本荘市	1,629	2,168	2,008	2	1	6	54
にかほ市	433	895	900	-	-	-	14
大仙市	-	2	46	-	-	-	67
仙北市	-	-	5	-	-	-	500
美郷町	-	-	3	-	-	-	97
横手市	462	545	1,628	-	-	13	44
湯沢市	1,721	3,695	7,745	10	1	19	21
羽後町	13	32	34	-	-	-	54
東成瀬村	15	129	232	-	-	12	25
計	4,853	8,809	13,970	270	63	176	2,062

2 ナラ枯れ被害対策関連予算

事業	事業種	H26(実績)		H27(実績)		H28(計画)	
		事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)	事業量	事業費(千円)
国庫補助事業	樹幹注入(本)	1,015	3,706	1,991	7,610	1,900	7,963
	駆除(㎡)	25	686	279	8,610	310	9,252
森づくり税事業	危険木等処理(㎡)	3,496	40,270	4,321	48,635	6,078	72,518
計			44,662		64,855		89,733

※このほか、ナラ林の若返りを図るため、造林補助事業等(更新伐)でも対応